

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：神座・鶴網自治会

開催場所：北部ふれあいセンター

開催日時：平成 28 年 9 月 14 日（水）19 時 00 分～20 時 35 分

参加者：自治会側【地域住民の方 22 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、鈴木市長戦略部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、駒形戦略推進課係長、山内協働推進課係長】

内 容

① 中澤自治会長あいさつ

- ・市長さんには敬老会に出席いただき、市長さんにお言葉をいただいて元気が出たという高齢者の方がたくさんいたと聞いている。
- ・当地区には市から格別な御配慮をいただいている。
- ・リオ・パラリンピックに出場している車いすバスケットの藤本怜央キャプテンには、皆様から様々な御支援をいただいた。決勝トーナメントには進めなかったが、彼のプレーや言動を見ていると立派であると感動した。スポーツを通して、立派な青年がこの地から輩出されたことに誇りに思っている。これを機に市民スポーツの発展にお力添えをいただければと感じている。
- ・神座と鶴網は、災害時に孤立する恐れがある。神座と鶴網の間で災害時に連絡が取り合えるように無線を配備したが、その中継局のアンテナの設置について、市有地を無償で提供いただいた。
- ・3組、4組の公会堂の建設に際しても、市の支援をいただいた。厳しい市の財政事情の中、市民サイドに立った行政運営に感謝申し上げる。
- ・神座・鶴網地域の課題は、児童数の減少に伴う神座小学校の存続の問題。高齢化に伴う耕作放棄地の拡大への対応。基幹産業であるお茶、みかん（産業）の振興、防災力強化のための治山治水対策が挙げられる。
- ・地域では、これらの課題を少しでも和らげられるよう、発展、推進するよう努力と工夫を重ねていきたいと考えているが、行政のバックアップがないと課題の解決は難しいと考えている。
- ・住民が安心して、笑顔で暮らせるよう引き続き御支援を賜りたい。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・この車座トークは、市内全ての 68 自治会をまわるといこと実施している。最初の 2 年間は「語る会」ということで呼んでいただいたところに伺っていたが、呼んでいただけない自治会もあり、全部隈なくまわるとい事は難しかった。
- ・また、今年と来年の 2 年をかけて次の総合計画（H30～37）の策定作業を行っているが、各地域の課題や特色、さらにはどのような取り組みをしているのかをこの目で、この耳で確認して、それを市政に反映したいといことでもまわっている。
- ・人口減少時代に伴い、今までの行政や地域のあり方ではよりよいまちづくりができないといことを皆様にお伝えしたいとい思いもあつて、この車座トークを実施している。

■神座・鵜網自治会の人口、世帯について

- ・神座・鵜網自治会の 8 月 31 日現在の世帯数は 426 世帯、人口は 1,393 人で、高齢者人口は 376 人、高齢化率は 26.7%となっている。市の平均が 29.4%なので、3 ポイントくらい低い。15 歳以下の人口は 186 人で人口に占める割合は 13.4%となっている。市の平均は 13.8%なのでほぼ平均的な数値となっている。
- ・まとまりのある地域という印象を持っている。特に神座小学校の児童に対して、地域の皆様の御理解、御協力を賜っていることに感謝申し上げる。

■行政（政治）の役割が変わってきていることについて

- ・島田が今、一番課題としていることは人口減少。団塊の世代が全て後期高齢者になる 2025 年から 2030 年までの間に高齢化率が 4 割を超え、2030 年から人口自体が減少していく。
- ・地方に人口を増やし、地域の活力を取り戻すため、島田市でも地方創生に取り組んでいる。昨年度は、「島田市まち・ひと・しごと地方創生総合戦略」を策定しており、今後、様々な施策を講じる必要がある。
- ・子どもを産める年代の絶対数が減ってきた。産むことの出来る女性の絶対数が減ってきているので、子供の数が急激に増えるといことは難しい。
- ・これは今までに我が国が経験したことの無い縮小していく時代であり、どうやって切り抜けていくのかといことが大きな課題となっている。島田市の例で言えば、人口が今の 2 割減、最大で 4 割減という推計もされている。子どもたちが適正規模での教育を受けられない懸念もある。
- ・これからの時代（少子高齢化）は、医療や介護に多額の費用がかかる一方、子育て施策にも力を入れなければならないが、働く人の人数が減ることから、今までのような税収も望めない。
- ・生まれてくる子どもの数を見ると 1975 年から減り続けてきた。40 年間減り続けてきたことを概ね同じ年数をかけていかないと子どもの数は増えていかない。

- ・都知事選挙に立候補した増田さんが「消滅可能性都市」というレポートを2年前に出した。これは、全国自治体の半数が40年後には消滅するかもしれないというショッキングなレポートだった。このレポートの趣旨は、若い女性がいな都市はいずれ消滅するというものである。
- ・では若い女性に住んでもらう地域をどうやってつくっていくのか。右肩上がりではなくなった時代にあって、どういうまちをつくっていったらいいのかという課題は、新たな課題として我々に突きつけられている。
- ・このような時代において、すべてを行政にお任せしているのでは、皆さんが満足できる生活はできない。
- ・地域の課題を、地域で行政と一緒に解決していくことが必要で、それにいち早く気が付いた自治体（地域）が選ばれるまちになる。
- ・地域の助け合いの事例として、ある地域では、ごみ出し券などを活用して生活支援のサービスを行っていく計画がある。サービスを提供した人は、たとえば500円でも収入になる。
- ・放課後児童クラブに取り組んでいる地域もある。放課後児童クラブまで児童を送っている地域もある。
- ・買い物や通院ができない、いわゆる交通弱者対策として、車をボランティアで走らせている地域もある。そのための経費（ガソリン代等）については、市から支援している。（コミバスは2億4,000万円ほどの経費で運行しているが、時間帯が悪いなど様々な御意見をいただいている。）
- ・防災や高齢者対策について考えはじめた地域が出てきている。
- ・地域の課題解決のために自分たちに何ができるのかということを考えて動き出している地域がある。ここに行政が支援して、きめ細やかな施策を打っていきたい。
- ・10万人都市の良さとして、地域やご近所での見守りや助け合いを実践していただけたらと思っている。
- ・9月の補正予算に、この北部地域への光ファイバー網の整備費として1億8,000万円を計上している。予算（債務負担行為）が認められれば29年度の事業実施となる。（情報格差、情報を得る段階での容量の格差の是正は若い方々に住んでもらうためには大事なことだと考えている。）
- ・今の子どもはスマホ、タブレットを利用し、固定のパソコンは持たない傾向にある。これも環境の変化であろう。この環境の変化に対応できるまちづくりを皆さんのお知恵を借りながら進めていきたい。

■神座・鶯網地域の課題について

- ・北部4小学校（伊太、相賀、神座、伊久美）の学区内で昨年生まれた赤ちゃんは16人。2人引っ越してきたので、1歳児は18人。6年後には小学生になる。
- ・財政的な意味で（学区の）再編を考えたことはないが、10年間教育委員を務めてきて思うことは、子どもにふさわしい教育環境は必要である。北部4校の児童はアットホームな環境で学校生活を送っているが、ある程度の規模の人との交流は必要。それは社会に出た時への対応につながるもの。
- ・この地域の方の御意見も聞いていく必要がある。男性、女性、高齢者、若者で意見は違うが、この地域の未来を担う子どもを焦点にして（こどものあるべき教育環境を）議論をしていく必要がある。

- ・若い人に地域に住んでもらうことは必要であるからこそ、そういった議論を今後（5年、10年かけて）地域の皆さんにもお願いしたい。
- ・市内の小中学校は昭和40年代から50年代はじめに集中的に建設され、今後、建て直しの時期も一斉に来る。
- ・今後10年のうちに小中学校の建て替えを機に、より良い教育環境（地域の特色を活かした教育）を考えていかなければならない。
- ・一方、学校がなくなる地域にとっては、地域の拠点がなくなることから、その影響は大きいと考える。その学校の跡地を地域の拠点になるような考え方を持っていかなければならない。ここだけの課題ではなくて、他の地域も含めて考えていかななくてはならない。
- ・現在30歳になる方が成人の時には、約1,300人いた。現在の成人式に出席する該当者は約1,000人。最近生まれる赤ちゃんは700人の後半。このように子どもの数が減ってきている中であっての教育について考える必要がある。

■市や国の課題と行政の役割について

- ・市が所有する公共施設の数、276施設、663棟ある。道路は1,173km、橋は1,155橋ある。道路、橋は5年に一度点検する必要があることから、年に道路では200km程度、橋では230程度を点検しなければならない。もし不具合があれば修繕しなければならない。
- ・新しいものを造る時代ではなく、今ある施設を長寿命化していかに長く使っていくかという時代となっている。
- ・国土交通省の予算も新しいものを造る予算と長寿命化する予算は6：4であるが、直に5：5になると思う。
- ・276施設、663棟の公共施設を、これから40年間維持していく経費は、2,515億円と試算された。1年間では63億円。現在の維持修繕費は36億円なので、1.75倍の維持修繕費が必要になる。このため、施設配置の適正化に関する計画を策定していく。
- ・行政の役割は、その地域の皆さんが安心して住み続けられるまちをつくることであり、これが政治の根本であると思っている。
- ・年金だけで暮らしている高齢者が多くなっている。こういう方々も健康で安心して暮らせるまちをつくる必要がある。
- ・そのために市内に地域包括支援センター（高齢者あんしんセンター）を設置している。
- ・国の昨年の医療費が40兆5,100億円となったというニュースが昨日、掲載されていた。昨年度比3.4%の伸びとなっている。
- ・医療費が増える要因は、例えば、高額な薬が出てきていることによる。C型肝炎の薬は一錠8万円で、3ヶ月服用しなければならず、3ヶ月で720万円掛かるが、国民健康保険があるから、個人負担は月2万円しかかからない。オプジーボという肺がんの薬が新薬の認証を受け、1年間服薬する必要があるが、1年間で3,500万円の薬代が掛かることになる。しかし、これも個人負担は月2万円しかかからない。
- ・このため国は、施設から在宅へという医療制度改革を進めている。入院日数も今より短くする方針となっている。（医療費抑制のための国の施策）
- ・このような国の施策に対応するため、安心してこの地域に暮らし続けてもらうために、市では4月から24時間訪問看護ステーションを整備した。
- ・まさに生活を守ることは行政の基本中の基本であるため、きっちりやっていく。
- ・一方で、財源も稼ぎ出さなければならない。稼ぐ街をどうつくるかということについては、雇用を生み出し、住む人を増やして、この地域から若い人が出て行かず、入ってきてもらえる地域にすることが必要。

- ・この四半期で、島田市は、社会動態の人口がプラスとなっている。移住・定住者も県内自治体で2番目に多かった。
- ・若者を市外に出さない政策も必要である。

■新病院の建設について

- ・今年基本設計をつくっている。12月末になれば概ねの施設の状況や建設費用などを皆さんにお示し出来るようになる。
- ・造る場所は、今の病院の東側の駐車場の場所で、道を付け替えたりする。あの土地だと三角形の建物になってしまうのではないかと思われるかもしれないが、今のところはT字型のような形になる予定としている。使いやすい形にしていきたい。
- ・床面積は35,000㎡、7～8階建て、屋上にはヘリポートを設置して、ドクターヘリの患者に対する医療行為を効率的に行えるようにしていきたい。
- ・建設費等については、医療機器に約50億円、医療機器を含む総事業費約247億円を見込んでいる。
- ・交通渋滞の緩和等を図るために周辺の道路整備もあわせて行っていきたい。
- ・医師の確保にも努めていきたい。今までは市民病院は京大系の医師の派遣を受けてきたが、研修医が自分の研修先を選択する時代になり、今後、安定的に医師を確保するために、常時派遣してもらえる浜松医大との連携を密にしており、今後も継続して派遣していただけるように取り組んでいきたい。
- ・昔は医局制度があって、教授が指示していた時代には、京大からも医師が島田に来ていたが、今は、研修医が自分の研修する場所を選択するため、島田に来なくなった。京都の学生さんたちは、関西圏から出たくない。
- ・医師の住環境や、医師のご子息の教育環境にも配慮していく必要がある。
- ・志太・榛原地域には4つも大きな病院がある。人口減少や医師の確保の課題などに対応するため、将来的には一つになればいいと考えている。
- ・現在は、得意な診療科目などを活用して、医師の相互派遣や診療科目の補完を通じて連携している。
- ・この病院建設の目処を付けてから次の対応を考えている。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■神座小学校の存続について</p> <p>少子高齢化、子どもの数の減少（神座小学校の入学児童が10人程度）による小学校の統合によって、地域の自治が守られるのか。大事な場所が消滅していくことを考えると心細い。成人の日のアンケートでは、9割の若者は島田に住みたいと回答している。住みたい気持ちはあるが実態はどうか。そういったものを踏まえて小学校の統合については考えて</p>	<p>●アンケート調査の結果でも、住民満足度や地域住民との付き合いの満足度は高い。</p> <p>島田警察署長は19回目の赴任先だが、どこよりも島田はいい土地だと言ってくれている。親切で安全なまちであり、警察官を受け入れてくれる。暮らしやすい、良いまちだとの感想をいただいている。このような島田の良さを伝えていかなければならない。ただ根っこには、自分たちの地域を</p>

	<p>いただきたい。</p> <p>神座小学校では、今月通学合宿も実施するなど、子どもと地域住民のふれあいが強い地域であることから配慮をいただきたい。</p>	<p>自分たちが愛して誇れることが重要。</p> <p>静岡県の高校生が県内の大学に進学してもらう取り組みも始まっている。(高校1年生対象の冊子の配布)ただ、大学を卒業した女性が働く場所を提供できる環境整備も必要。</p> <p>小学校の問題は、神座小は特に谷川俊太郎さんとの関わりも深く地域の特色を持った教育を実践しているので、簡単ではないと思うが取り組んでいかなければならない課題であることは事実である。</p>
2	<p>■婚活事業について</p> <p>60年お茶をつくっているが、なかなか採算にならない。</p> <p>磐田に姪っ子がいるが、離婚したため、再婚してほしいと思っていた。(再婚について)磐田市役所に行って相談したら、御殿場の方に良い人がいると紹介していただき、その方と交際して再婚した。この地域にも結婚適齢期の人がある(20数名)。島田市も、お付き合いをさせること(婚活事業)に取り組んでほしい。</p>	<p>●おせっかい人という制度や、婚活もやっている。出会いの環境を創出したり、親同士のお見合いや訳あり婚等にも取り組んでいる。</p> <p>県内でトップクラスの婚活施策を実施している。</p> <p>既婚者は2人以上子どもを産んでいるが、問題は未婚者である。未婚率が高く、初婚年齢もあがっている。男性の生涯未婚率は25%を超えている。初婚年齢は女性が29歳、男性が30歳となっている。女性が子どもを産める年齢が40歳くらいまでとしたら、なかなか3人、4人と産めない時代になってきている。地方で子どもを安心して産み育てられる環境を整備することが必要だが、一自治体の努力で解決できる問題ではない。大学を出て10年間働かないと一人前になれないような状況や、育休、産休がとりにくい社会では、なかなか子育てはできない。なにより、若い人たちが結婚したいという社会にしていくことが必要。</p> <p>市内では、自治会でお見合いをしている取り組みもある。</p> <p>自治会同士での取り組みでもおもしろいと思う。</p> <p>市では婚活の取り組みに関するPRを進めていく。</p>
3	<p>■コミュニティバスの運行について</p> <p>2億円近い運行経費がかかる中、コミュニティバスを運行いただきありがたいが、朝の運行について、学生が乗るバスの時刻が遅くなったと保護者から聞いている。北中に着くバスが7時50分、神座小学校に着くバスが7時45分。以前は北中が7時35分、神座小が7時30分で15</p>	<p>●バスの運行については、色々な御意見をいただいている。</p> <p>来年の春に見直しを検討をしているので、担当にお伝えする。</p>

	<p>分くらい遅くなった。これにより子どもたちの生活のリズムが変わってしまった。今までは始業までの準備ができたが、北中は始業が8時であり、バスが遅れると8時に到着するということもあるそうだ。</p> <p>ダイヤの変更には市でも調査をしていると思うが、他の路線との兼ね合いから、ここ（神座・鶴網）だけを変えられるものでもない。</p> <p>ただ、保護者にも負担がある中で、精査して来年度配慮いただければありがたい。</p>	
4	<p>■市長の市政報告を聞いて</p> <p>特に今の地域に課題認識を持っていなかったが、市長の話聞いて小学校の課題は大きいと感じた。</p> <p>市長が敬老会に来ていただいて母が喜んでいた。</p>	<p>●皆さんに支えられて本当にありがたい。</p> <p>神座小学校の横には、学校給食の調理場のための建設用地として譲ってもらった土地がある。しかし、落合に大きな給食センターを建設したため、その土地には、当初の目的の学校調理場を建設しないこととなった。今は学校の駐車場として使っているが、どうしたらいいものかと悩んでいる。地域の皆様から御提案があれば、いつでも良いので伺いたい。</p>
5	<p>■神座小学校児童の減少と周辺環境について</p> <p>神座小学校の児童数が減ってきていて寂しい。児童数が少ないため、通学の見守りの順番が早く回ってくる。</p> <p>神座には子どもが遊べる公園がない。オレンジタウンにはあるが、この周辺にはない。この辺にはスーパーなどのお店もない。立地できる土地はあるように思うが。</p>	<p>●公園がないという御意見は重く受け止める。子どもが減少する事により、子どもの遊び相手がいなくなるが、親も相談相手がいらないなど孤立することが懸念される。育児不安をなくしていくことは行政の役割。</p> <p>スーパー、コンビニを山の中に造るよりは、これからは、こちらから届ける時代になると考えている。中山間地域の皆さんの不安を解消する新たな発想を持っていきたい。</p>
6	<p>■コミュニティバスの運行について</p> <p>今までのコミバスの時刻は覚えやすかった。今年度から時刻が変則になっていることから高齢者は覚えにくい。</p> <p>来年に向けて検討をするとのことのお話の中で、こういった利用者のアンケート調査をして検討材料にしてほしい。</p>	<p>●担当に確認してみないと分からないが、コミバスは、アンケート調査や実態調査（乗降調査）を踏まえて変更していかなくてはならないと考えている。路線は簡単には変えられない。国土交通省の陸運事務所へ届出をして変更が認められるが、届出をしてから認められるまでの期間が約半年必要である。皆さんの利便性を考慮したコミバスとしていくために考えていきたい。</p>
7	<p>■光ファイバー網の整備について</p> <p>光ファイバー網の整備について、家にはパソコンが3台あり、息子は</p>	<p>●光ファイバー網の整備は、平成29年度に事業着手する。内職は、今の時代はテレワークといって、全国から仕事を自宅で請けてできる時代。そう</p>

	<p>映像の仕事をしているのでありがたい。</p> <p>インターネットで仕事ができる企業に進出していただいたり、自宅で仕事ができるようになれば、この地域は住みやすい地域なので、光ファイバー網の整備はこの地域の武器になると思う。</p>	<p>した意味からも光ファイバー網の整備は必要である。</p>
8	<p>■防災情報の提供について</p> <p>災害の危険性について市から情報をいただきたい。(忙しいので、市から情報が提供されているのかわからない。)</p> <p>大井川は川幅があるので、水害の危険性はないと安心はしているが。</p>	<p>●ハザードマップ(水害の危険性、土砂崩れ、がけ崩れの危険性を示した図)を全戸配布しているが、市のホームページ上からも閲覧することはできる。危機管理課が自主防災の計画づくりのお手伝いをさせていただいているので、是非活用をさせていただきたい。</p> <p>大井川の神座地域において護岸工事をやっている。牛尾山の開削工事に伴う水の流れの影響を考えて実施している。国土交通省直轄区域の大井川の護岸工事の整備率は95%と大変高い。上流に15のダムがあり水害の危険性は減っている。</p>
9	<p>■大井川への橋の架橋について</p> <p>県道の交通量が増えている。金谷側に渡る橋については水路橋があるが、もう一本ほしい。新東名島田金谷インターチェンジにこの辺りから行ける橋があれば、神座の定住人口の増につながるのではないか。</p>	<p>●水路橋は地元の方に多く御利用をいただいている。</p> <p>大井川の架橋は国土交通省の予算の関係もあって、県内の1級河川、特に大井川、安倍川、富士川、天竜川の地域バランスを考慮して整備している。橋自体の整備に期間を要するので20年に1つ橋ができるくらい。</p> <p>島田では島田大橋を架橋して日が浅いので、ある程度の期間は橋を架けることは難しい。(どこに架けるといことも検討する必要がある。)</p> <p>島田は、交通インフラの結節点を最大限活用するため、島田金谷インターチェンジ周辺に84haの規模の内陸フロンティアで企業誘致をはじめとする土地開発に向けて進めている。(大井川の良質な伏流水も魅力である。)</p>
10	<p>■地域産業の活性化について</p> <p>お茶とみかん、バラがこの地域の基幹産業であるので、その良質な農産物を活用した地域振興ができないかと考えている。地域で考えてJAや市と連携できたらと考えている。</p>	<p>●市のふるさと納税の記念品について、一番人気は神座のみかんである。ダントツ一位。受付を中断するほどの人気である。神座のみかんを選ぶということで、皆さんも良いものを知っていると感じている。わがまちの神座のみかんをPRしていくと同時に、JAとの連携の中で、加工品のようなものをつくることができればいいと思う。</p>

※ 回答は全て市長から回答した。

④意見交換終了後市長から

今日は、私なりに正直に話をさせていただいた。正直に話をし、課題を共有していくこと、できることを精一杯やっていくこと、これなくしては、まちは変わっていかないと思う。

もう一つ私の役割だと思っていることは、若い人たちに世代交代（バトンタッチ）をしていくこと。これも今の島田の課題だと思っている。実際には、60代、70代以上の方々について、本当に実力のある方々が多いまちなので、その方々がまだまだ力を持っており、それは本当にありがたいことだが、次の30代、40代、50代の人たちに、まちづくりだとか行政だとか、そういうことに興味を持ってもらうこと、それが政治の役割だと思っているので、そういった市政を展開してきている。若い人を育てて行くこと、みらいに繋げる人づくりが必要。

同時に対立軸を生まないこと。島田の力を結集して課題に取り組むことが今こそ必要で、島田が一つになる政治に心がけている。

島田市は都市経営をする会社であり、究極のサービス業である。どんな政策をうてるのかということにかかっていると思う。また、スピード感を持って取り組まなければならない。

⑤当日の様子

